

中山間過疎化集落における空き家利活用方策の提案

事業責任者： 菊地 吉信（工学研究科・准教授）

代表学生： 内田 洋紀（工学研究科・博士前期課程 1 年）

概 要	
	<p>中山間地では過疎化の進展に伴い地域活力の持続が困難となり空き家が増加している。その一方で、里山の豊かな自然環境や伝統的な住宅様式を伝える住宅は、自然共生型のライフスタイルが希求される現代における貴重な資源でもある。そこで本申請事業では、こうした過疎化地域における地域活力の維持に貢献することを目的として、現存する空き家の利活用方策の提案・実践に向けて、学生自ら地域住民の意見を聞きながら取り組んだ。空き家の利活用方策の提案という観点からは、地元の専門家（建築士、工務店、材木店）との協力関係を築き、具体的な改修計画を作成することができた。また参加学生の計画作成力と連絡調整の能力が向上するなどの教育的効果が得られた。地元住民からの期待も寄せられており、次年度以降にさらなる発展を目指す。</p>
関連キーワード	空き家、ストック活用、中山間地、過疎化、交流

事業の背景および目的

県内の中山間地では過疎化の進展に伴い地域活力の持続が困難となり空き家が増加している。その一方で、里山の豊かな自然環境や伝統的な住宅様式を伝える住宅は、自然共生型のライフスタイルが希求される現代における貴重な資源でもある。そこで本申請事業では、こうした過疎化地域における地域活力の維持に貢献することを目的として、現存する空き家の利活用方策の提案・実践に向けて、学生自ら地域住民の意見を聞き、利活用方策を提案する。この取り組みの過程で、地域への貢献のみならず、学生のコミュニケーション力や課題発見力も磨かれることが期待できる。さらに、本申請事業は、将来的には里山環境を生かした多様な教育・研究の活動拠点づくりへと発展させることも期待できる。具体の対象となるのは、南越前町今庄瀬戸地区に現存する、空き家となった伝統的民家である。

事業の内容および成果

平成 26 年度の主な活動は表 1 にまとめる通りである。主に空き家のインフラ面の整備を行った。上水道の開栓と電気配線の安全確認を行い、電気・水道が使用可能な状態となった。7 月には所有者の方と共同で、家の中に残されていた物品の運び出しや古い雪囲いの取り外しを行った。また、11 月から 12 月にかけて、地元住民に教をを請いながら学生自ら雪囲いの製作を行った。1 月には雪かきや屋根の雪下ろしを行った。

また、空き家の改修を進めていくにあたり、先進事例として近隣地区で古民家改修を実践している NPO 法人今庄旅籠塾にヒアリング調査を行った。その際誘っていただき、工業高校生が行っている町家改修事業を見学させていただくなどした。3 月には屋根瓦の検査と、空き家の縁側の改修作業を始めた。今後は空き家の段階的な修繕を行いながら、地元住民との交流を深め、有効な活用につなげたいと考えている。

表 1 作業の内容

平成 26 年 4 月	ニュースレター作成・配布
5 月	DIY に関するヒアリング (今庄旅籠塾・細川先生)
7 月	所有者の方と正式に契約 所有者の方と空き家の大掃除 地域の方と BBQ
8 月	今庄旅籠塾の改修事業に参加 水道や電気関係のヒアリング (今庄総合支所・岡本さん)
9 月	空き家改修のヒアリング (AOI-IE・内山さん)
10 月	電気・上水道契約
11 月	冬支度・雪囲い製作
12 月	雪かき、大掃除
平成 27 年 1 月	屋根雪おろし
3 月	縁側改修開始



所有者との共同による大掃除と老朽化した雪囲いの撤去



NPO 法人今庄旅籠塾による教育支援事業の見学



学生による新たな雪囲いの製作



地元専門家による改修作業の指導

参考文献・添付資料および特記事項等